



研究部会報告

●意思決定のための会計情報●

●第16回

日時：3月23日(土) 11:00~15:30

場所：慶応義塾大学ビジネススクール 出席者：10名

内容

- (1) ポートフォリオ分析に関する文献紹介
(慶応義塾大学：伊藤和憲)
- (2) チェーン・ストアの投資管理
(慶応義塾大学：伏見多美雄)

●第17回

日時：4月27日(土) 13:30~16:00

場所：慶応義塾大学ビジネススクール 出席者：9名

内容：

- (1) 経営意思決定において在庫金利をとり扱う際の諸問題
(金沢工業大学：今沢明男)
- (2) 部門損益管理方式の検討(セイコー電子工業㈱)：
石井侃)

●第18回

日時：6月1日(土) 13:30~15:30

場所：慶応義塾大学ビジネススクール 出席者：13名

内容：

- (1) 事業部の戦略投資計画と会計情報
(慶応義塾大学：伏見多美雄)
- (2) 製品群の移管計画について
(セイコー電子工業：石井 侃)

●日本のシステム科学●(研究グループ)

●第1回

日時：昭和60年3月9日(土) 14:00~17:00

場所：八丁堀 東京都勤労福祉会館 出席者：7名

テーマ：自由討論(日本のシステム科学について)

科学には国境はありません。しかし、実学であるシステム科学を日本において行なうとか、日本にかかわりのあるモノゴトについて適用する場合、どうしても、日本を考慮にいれて考えなければならないと思います。当日具体例として日本のサラリーマンの年代別の気風とか行動の傾向ならびに佐渡が島の開発等が分析されました。

●社会経済分析●(研究グループ)

●第1回

日時：3月30日(土) 午後

場所：東京都勤労福祉会館 参会者：19名

議題：(1) オペレーションズ・リサーチの原点

(2) 社会経済分析研究部会の今後の活動方針

(ねらい) オペレーションズ・リサーチの誕生は第二次大戦の作戦解析であった。当時の状況をみるにその成果はすばらしいものがあった。しかし、戦後のビジネス社会、特に社会システム、経済、経営の3者に適用するにはあまりにも客観条件が異なっていることが確認された。したがって、今からの社会経済分析の研究部会においては、まったく新しい発想にもとづくアナリシスアプローチが必要であるとの意見の一致をみた。

日時：6月1日(金) 14:00~17:00

場所：東京都勤労福祉会館 参加者：15名

テーマ：中国の風土とシステム技術力

発表者：上田亀之助

現在の中国をみるに、個々の人は非常に優秀であるにもかかわらず、システム技術力としてみると、見劣りのすることは否めない事実である。2000年前に万里の長城が築かれたことは周知のことであるが、あのすばらしいシステム技術力はその後なぜ発展し得なかったのか、その本質を分析することによって、この問題がおのずから浮きぼりにされるのではないかというのが本研究のねらいであった。結論からいうと非常に有意義な研究ができた。われわれが中国と協力しようとするとき、あるいはわれわれ自体のシステム技術力の維持向上に、示唆を与えるものがきわめて大きかった。

●決定モデルとその応用●

●第7回

日時：昭和59年12月15日(土)

場所：大阪大学基礎工学部数理教室 出席者：15名

講師・テーマ：

(1) 大西匡光(京都大学)

「Portfolio 選択に関する論文紹介」

(2) 坂口 実(大阪大学)

「不完備情報行列 game におけるLR I学習について」

●第8回

日時：1月19日(土)

場所：大阪大学基礎工学部数理教室 出席者：15名

講師・テーマ：

(1) 中井 達 (大阪府立大学)

「最適停止問題に関する論文紹介」

(2) 玉置光司 (追手門学院大学)

「郵便配達における確率モデルに関する論文紹介」

● 第9回

日時：2月23日(土)

場所：大阪大学基礎工学部数理教室 出席者：15名

講師・テーマ：

(1) 寺岡義伸 (姫路工業大学)

「On the value of market information and rational expectation」

(2) 坂口 実 (大阪大学)

「Non-zero-sum games for some generalized secretary problems」

● 政策科学 ●

● 第13回

日時：3月16日(土) 14:00~17:00

場所：三菱総合研究所 出席者：10名

テーマ：VANの産業社会へのインパクト

講師：岸本光永 (共同VAN株式会社)

毎日のようにマスコミをにぎわせているVANについて本質的解説をするとともに、こういった新しいシステムを現実の社会へ適用する際の最大のバリエーションは政治や政策であり、これは、現在の政策がすでに確立された利益をどうとり扱うかを主眼にしているのに対し、これから発生する未来の利益をどうするかに対する統一的展望をもたないからであると論じた。

● 第14回

日時：4月20日(土) 14:00~17:00

場所：三菱総合研究所 出席者：15名

テーマ：食糧の備蓄問題について (費用対効果の観点から) 講師：柏井秀明 (防衛庁)

わが国は、平均摂取熱量の48%を輸入に依存している。『糧断』の事態に対処するための対策として、食糧備蓄をとりあげ、いくつかの仮定のもとに食糧備蓄モデルを構築し、結果の評価については、保険の考え方を適用した。半年分の食糧を国家備蓄し、これを維持していくことが最適であり、これにより、60年に一度の食糧危機も乗り越えられると結論づけた。

● 第15回

日時：5月25日(土) 14:00~17:00

場所：三菱総合研究所 出席者：9名

テーマ：「動物農場(ジョージオーウェル)について」

講師：三ヶ尻 昭 (日本電信電話株式会社)

「動物農場」を解説し、作家としての鋭い目に対する評価と、オーウェルの体制に迎合しないではっきりと意見を述べる態度に関して論議し、さらに、近代的エンジニアの一般的なものの考え方とその作品(ハードウェア)の普遍妥当性に言及した。

● 新社会システム ●

● 第1回

日時：4月17日(水) 10:00~12:00

場所：北海道大学 出席者：13名

議題：本研究部会の活動方針と今後の予定

本研究部会は、コンピュータやニュー・メディア等の導入により変化しつつある社会システムを新社会システムと呼び、地域(特に北海道)とのかかわり合いの中で生ずるOR的諸問題を研究する。具体的には、防災・交通などの都市型行政システム、地域産業への高度情報化のインパクト等が候補にあがった。社会調査方法論、参加型システムズ・アプローチ等の方法論も研究を要する。

● 第2回

日時：5月22日(水) 10:00~12:00

場所：北海道大学工学部 出席者：24名

テーマ：札幌市スノートピア計画について

講師：柴田浩英、山恒雄 (札幌市企画調整局)

時代はニューメディアによる高度情報化社会に向かって動き出している。札幌市でも、ニューメディアを活用して街づくりを進めようとして札幌市スノートピア計画を策定し、郵政省のテレピア構想のモデル都市に指定された。この講演では、この計画に至った背景とシステムの概要についての紹介があり、活発に討論を行なった。

● 政策科学 (関西) ●

● 第1回

日時：昭和60年4月13日(土) 14:00~17:00

場所：兵庫県民会館 10階「福の間」 出席者：30名

テーマ：兵庫県の地理情報システム

講師：江口 靖夫 (兵庫県企画部情報管理課)

政策決定を支援する総合的・体系的な計画情報分析システムPIASのあらまし、サブシステムである地理情報システムの開発の経緯、その共同システムとしての機能、森林計画、日影図作成などといった個別業務支援システムの機能、ランドサット衛星によるMSSデータ、

航空写真の結合・拡大といった画像処理システムが紹介された。活発な討論のあと、2班に分れ、実演を見学し、いっそうの理解を深めた。

●DP● (研究グループ)

日時：4月2日 18:00~20:00 場所：日科技連
出席者：3名 テーマ：多段階在庫システムの近似解法 講師：丸山茂子(電通大)

1つの倉庫をもち、倉庫によって供給される多くの貯蔵地をもつ多期間問題に対する近似政策につき論じた。問題は倉庫がすべての要求を満足するために十分である場合で、困難点は可能な状態の数が指数的に大きくなることである。単一期間における近似政策が用いられた。

日時：5月7日(火) 18:00~20:00

場所：日科技連 出席者：7名

テーマと講師：多段階生産ラインにおける最適バッファ配分、上智大学 鈴木誠道、山下英明

各ステージのあいだのバッファ容量を配分する問題を考えた。各ステージの周期は幾何分布をもつ。ラインの評価は、倉庫入力としてラインから出る加工品の割合(生産率)で行なう。総容量を固定した時、生産率が最大になるような最適バッファ配分を求めめるために、大きなラインにも適用できるDPを用いた近似解法を示した。

●日本のシステム科学● (研究グループ)

●第2回

日時：昭和60年4月6日(土) 14:00~17:00

場所：八丁堀 東京都労務福祉会館 出席者：8名

テーマ：「コーポレート・カルチャ」

発表者：樋爪 徹(山之内製薬)

企業が変化する環境のなかで、すこやかに変化してゆくためには、なにがおこってもそれにうまく対応してゆけるようにしなければなりません。そのために必要なことは、その企業なりの「コーポレート・カルチャ」をもつことです。現代日本の場合どうしたらよいかについて論じた。

訂正

前月号で執筆者の所属が間違っていましたので訂正いたします。

P.385「一般ネットワークにおける複数施設の配置問題」矢部眞氏 工学院大学 生産機械工学科

P.361「北洋漁業の地域経済におよぼす効果に関する研究」阿部秀明氏 北海学園 北見大学、佐藤博樹氏 北海道漁業協同組合連合会

新時代のコンピュータ総合誌

Computer Today

●7月号特集/好評発売中 定価880円

高機能ワークステーションのすべて

ワークステーション：過去から未来へ
Richard R.Makino

知識情報処理用ワークステーションの研究開発
内田俊一

ソフトウェアシステムの将来像 館野昌一
ワークステーション事例

DOMAIN—福岡茂穂 Sun-2—吉川徹男
NGEN—中山宗之 VAXstation—松林次朗
SUPERMATE—後藤国彦

ワークステーションと科学技術計算 大和喜一

ワークステーションのソフトウェア 多田好克

BTRON—スーパーワークステーション 坂村 健

■お徳な年間購読のおすすめ 年間5000円(6冊)

●既刊5月号 定価880円

リレーショナルデータベースシステム

別冊 特集 **PAD** 好評発売中
定価1200円

—構造化プログラム開発技法—

ソフトウェアの新パラダイム“PAD”を各方面から詳しく検討。併せて各ツールも紹介。

数 理 科 学

8月号予告 定価880円

特集=応用認知

応用認知：インターフェイスの設計	溝口 文雄
マンマシンインターフェイスの課題	田村浩一郎
エラーの認知モデル	平賀 譲
マルチウィンドウシステムを通して見たインターフェイスの考察	内田 俊一
パーザの応用認知科学	辻 順一郎
自然言語インターフェイス	往住 彰文
人工知能指向プログラミング言語のマンマシンインターフェイス	井佐原 均
オブジェクト指向言語とマンマシンインターフェイス	小谷 善行
音声理解と認知科学	竹内 郁雄
応用認知科学の文献と解説	溝口理一郎
	高橋由美子

<連載> 生物のかたちづくり⑭ 土居 洋文
電磁気学を考える④ 今井 功

数理科学・別冊 **知識と認知のソフトウェア**
定価1800円
好評発売中

サイエンス社

東京都千代田区神田須田町2-4 安部徳ビル
☎03(256)1091 振替 東京7-2387